

# 日中対照言語学会第28回大会（2012年度冬季大会）のご案内

## 記

日 時：2012年12月9日（日）午前9時00分より午後5時30分まで

会 場：大阪産業大学梅田サテライト（JR大阪駅南口下車、阪神百貨店右の通りを直進、  
徒歩5分、大阪駅前第三ビル19階。大阪市北区梅田1-1-3。電話 06-6442-5522）

参加費：1000円（会員、非会員共通）

## プ ロ グ ラ ム

- 受付（9：00－） 総合司会 安本真弓（高千穂大学）
- 大会開催校挨拶 張黎（大阪産業大学） 9：20－9：30
- 開会の辞 鈴木義昭（早稲田大学） 9：30－9：40
- 研究発表1. 中国語の“対面”“旁边”“周围”“周边”の用い方及び日本語訳の特徴  
郭芳菲（京都外国語大学大学院博士前期課程） 9：40－10：15
- 研究発表2. 日中対訳における意志表現の「スル」の対訳形式の選択 10：15－10：50  
孫樹喬（神戸外国語大学大学院生） 以上司会 彭飛（京都外国語大学）
- 休憩（15分：10：50－11：05）
- 研究発表3. 「視点」研究における二人称の位置付けについて－「やる/くれる」, 「行く/来る」, “去  
/来”を例に－ 古賀悠太郎（神戸市外国語大学院） 11：05－11：40
- 研究発表4. 条件接続表現における日中対照研究——「たら」「なら」に対応する中国語表  
現を中心に 李慧（九州大学大学院比較社会文化学府博士課程） 11：40－12：15  
以上司会 下地 早智子（神戸市外国語大学）
- 昼休み（60分 ビルの階下に食堂街あり） 12：15－13：15
- 研究発表5. “这/那”の指示機能虚化から見た中日指示詞の非対応 13：15－13：50  
邱 麗君（大東文化大学大学院博士後期課程）
- 研究発表6. 日本語助数詞「枚」と関連している中国語量詞“张”“片”“面”“块”におけ  
る認知分析 13：50－14：25  
長野由季（株ヒューマンサービス中国語講座楽学） 以上司会 竹島毅（大東文化大学）
- 休憩（15分：14：25－14：40）
- 講演：テンスとムード 工藤真由美（大阪大学） 14：40－15：40
- 研究発表7. 日本語と中国語の誤用例研究 15：40－16：15  
藤田昌志（三重大学） 以上司会 王学群（東洋大学）
- 研究発表8. 選択解釈と疑問解釈 16：15－16：50  
王 慶（九州外国語学院・非常勤講師）
- 研究発表9. 日中対照関係から見る中国語の使役表現について 16：50－17：25  
高橋弥守彦（大東文化大学） 以上司会 余維（関西外国語大学）
- 閉会の辞 豊嶋裕子（東海大学） 17：25－17：35
- ※当日入会申し込み、学会費の納入も受け付けます。（年会費：社会人 4000円、院生 2000円）

## 日中対照言語学会第28回冬季大会研究発表者とその要旨

### ※講演

ひと：工藤真由美(大阪大学文学研究科)

テーマ：テンスとモード

#### [要旨]

世界の諸言語のなかで見た時、日本語は、相対的に、形態論的形式（形態論的カテゴリ）の発達している言語であると思われる。話し手と聞き手の相互行為としての〈はなしあい〉における〈叙述文〉の動詞述語の終止形では、〈スル（完成）—シテイル（継続）〉の対立はアスペクト、〈スル（非過去）—シタ（過去）〉の対立はテンス、〈スル（断定）—スルダロウ（推量）〉の対立は認識的モード（叙述法）を表しわける。

テンスは、ともに〈時間〉に関わる点でアスペクトと相関する。しかし、同時に、モードとも深く相関している。認識的モード（叙述法）には〈話し手の事象の確認〉というモーダルな意味があるが、このモーダルな意味は、過去の事象なのか、現在の事象なのか、未来の事象なのかによって、その具体的な意味が違ってくる。また、過去の事象に対して非過去形を使用した場合、逆に、現在の事象に対して過去形を使用した場合にも、モーダルな意味が違ってくる。このようなテンスとモードとの相関性を考察する。

### ※研究発表

#### 1. 郭芳菲（京都外国語大学大学院博士前期課程）

中国語の“対面”“旁边”“周围”“周边”の用い方及び日本語訳の特徴

—日本語の空間表現との相違をめぐって—

#### [要旨]

本論文は中国語の“対面”と日本語の「向かい」「向こう」、中国語の“旁边”と日本語の「そば」「となり」、中国語の“周围”“周边”と日本語の「周囲」「周辺」「まわり」「あたり」と比較しながら、日中両言語における空間表現の意味用法の相違及び『日中辞書』『中日辞書』の語釈における問題点について考察するものである。

結論として、次のような内容が明らかになった。

①習得する順番によるステレオタイプが間違いの一因となる。例えば、中国語の“対面”は「向かい」と「向こう」に対応し、学習者は間違いやすい。辞書の説明が不足しているだけでなく、日本語教育で「向こう」は初級語彙で、「向かい」は中級語彙であるため、「向かい」より「向こう」が先に習得する。

②中国語よりも日本語の空間名詞における空間表現の多様性（物理的空間と心理的空間または空間から時間へのメタファー用法）が多く見られた。

③日本語の漢語空間名詞はその中国語の同形語の古い意味を引き継いでいることが多いことが分かった。例えば、中国語の“対面”と日本語の「対面」、「周围」「周边」と「周囲」「周辺」などがある。

## 2. 孫樹喬（神戸外国語大学大学院生）

テーマ：日中対訳における意志表現の「スル」の対訳形式の選択

[要旨]

日本語と中国語の意志表現をめぐる対照研究を行うなか、幾つかの日本語小説の中に現れる意志表現の「スル」形とその中国語翻訳版における相当表現を考察したところ、動詞無標形（「了」「吧」の文末形式との共起も含む）以外に、「要」や「会」などの形式も多く見られる。何故、意志表現としての「スル」の中国語相当形式は多様な形式になるか、このような現象は、むしろ文レベルの考察では説明できない。そこで、本研究は意志表現の「スル」の中国語相当形式の分化現象について、各表現のモーダルな意味を踏まえて、語用論的要素を考慮に入れ、談話において考察してみた。

結論として、「動詞無標形式」「要」「会」の選択は、意志の形成や聞き手に対する発話機能に影響されていることを明らかにした。話し手の内面と外界の関係を問題にする意志の形成から見ると、動詞無標形と「会」は[発話時の外界の要素による発話者の意志]を表し、「要」は[発話者の自身の意欲による意志]を表す。聞き手目当てのコミュニケーション機能から見れば、「会」は聞き手に対する[約束]を表し、「要」はむしろ聞き手の意志を敢えて無視し、一方的「意志の宣言」である。動詞無標形式は定着した発話の機能を持っていない、共起表現や文脈など具体的な要素の制限によって、聞き手に対する発話機能が違ってくる、と言える。

## 3. 古賀悠太郎（神戸市外国語大学・院）

「視点」研究における二人称の位置付けについて

—「やる/くれる」、「行く/来る」、「去/来」を例に—

[要旨]

本発表は、久野暉(1978)の共感度の概念を前提とした「視点」に関する研究である。「やる/くれる」、「行く/来る」、そして“去/来”の三項目を対象とする。

視点の議論にとって二人称の位置付けは非常に重要である。人称という概念が「視点」議論にとっては欠かせないが、その人称で世界を切り分ける際に分水嶺となるのは二人称の位置付けだからである（山口治彦(2002)）。それに加えて、中国語では話し手が視点を寄せ得る範囲を決定する際に鍵を握るのも二人称であると考えられる。これが二人称の位置付けという問題に取り組む動機である。

本発表ではまず、日本語において「内/外」の決定のされ方には「人称型」と「文脈・場面型」の二種類の視点があることを指摘する。その上で、「人称型視点」の適用範囲を根拠に、二人称は「やる/くれる」では一人称寄り、「行く/来る」では三人称寄りであることを

示す。

また、中国語では一人称と二人称の「共有の領域」に視点が寄せられると思われるが、二人称は必ずしも共有の領域に含まれるとは限らない。つまり、“去/来”においては二人称のうちある部分は一人称寄りであると言える。

【主要参考文献】

大江三郎(1975)『日英語の比較研究——主観性をめぐって』南雲堂

奥津敬一郎(1979)「日本語の授受動詞構文—英語・朝鮮語と比較して—」『人文学報』132 東京都立大学

久野暉(1978)『談話の文法』大修館書店

下地早智子(1997)「移動動詞に関わる『視点』の日中対照研究」『中国語学』244

城田俊(1996)「話場応接態（いわゆる『やり・もらい』）—『外』主語と『内』主語—」『国語学』186

山口治彦(2002)「直指動詞と対話空間：英語，日本語，そして九州方言をもとに」『神戸外大論叢』53-3

渡辺伸治(1999)「『視点』諸概念の分類とその本質」『大阪大学言語文化研究』25

#### 4. 李 慧（九州大学大学院比較社会文化学府博士課程）

##### 条件接続表現における日中対照研究——「たら」「なら」に対応する中国語表現を中心に [要旨]

本発表は日中言語における条件接続表現の諸相を窺うことを目的とする。方法として、コーパス（北京日本学研究中心（2003）『日中対訳コーパス』）等の用例調査より始め、それぞれの言語における表現比較や日中言語間の対照を手掛かりとして、使い分けにくい「たら」と「なら」の異同を明らかにした。さらに、日中言語の条件接続表現の対応関係や、意味拡張の相違も考察した。結論として、以下のような内容が究明できた。

1. 中国語に対応する表現から見る「たら」と「なら」の特徴は、「たら」の対訳語は「仮定詞」しかないが、「なら」は「仮定詞+是・説」と対応することである。これは「なら」が断定助動詞「だ」の仮定形であることに由来することを証明した。
2. 意味拡張から見れば、日本語の条件接続助詞は他の品詞に拡張するが、「たら」については接続助詞から終助詞へ、「なら」では接続助詞から接続詞への意味拡張が成立することを確認した。これに対して、中国語の条件を表わす表現には、語気助詞“吧”“呢”“呀”が用いられ、助動詞“要”も接続機能を持つようになる。このように、他の品詞類が元の用法から条件用法へ転化するという差異が確認できた。

#### 5. 邱 麗君（大東文化大学大学院博士後期課程）

##### “这/那”の指示機能虚化から見た中日指示詞の非対応

###### [要旨]

指示詞の特徴としては指示機能を持つことが第一義であるが、その指示機能から他の機能に拡張する過程で、実質的な指示機能が低減ないし消失するなどの変化が見られる。一方、新たな機能を獲得する途上で以前の性質が従来のものとの変化が見られるものの、全

て消失した状態ではなく、同時に 2 種類の機能を持ちながら存在する現象が見られる。すなわち、指示機能の虚化である。

本研究を通じて、主に下記の 3 点から指示詞“这(zhè)/那(nà)”の指示機能が虚化という現象をもたらす際、日本語の指示詞と対応しにくいことを指摘した。

- ア. 指示詞“这/那”が、指示機能から接続機能へ拡張する過程で文脈指示機能と推測関係を表すための標識機能という二つの機能を同時に持ち、しかも標識機能は文脈指示機能より強く働き、推測関係を表すマーカ―は指示機能を低減させる場合。
- イ. 「人称代名詞・人名+“这/那”+NP」構文では中国語の指示詞が人称代名詞と共起し、人称代名詞で指し示した人物を再度、指示詞で指し示し、指示詞と人称代名詞が所属関係や並列関係をあらわす場合。
- ウ. 指示詞“这么/那么”は本来、性質、方式、程度を代称・限定しているが、その指示機能が低減し、指示詞でありながら程度などを表す副詞に近い性質を有する場合。

【キーワード】 虚化 文脈指示機能 標識機能

## 6. 長野由季 (株ヒューマンサービス中国語講座楽学 講師)

### 日本語助数詞「枚」と関連している中国語量詞「张」「片」「面」「块」における認知分析

[要旨]

言葉は文化の一部であり、注意深く探求してみると、その言葉を使っている人々の生活習慣や文化的背景が見えてくる。助数詞（量詞）も例外ではなく、話者の持つ文化や思想を巧みに映し出す鏡といえる。

本発表では、認知言語学理論に基づき、日本語助数詞「枚」と関連している中国語量詞「张」「片」「面」「块」の語彙分析および認知比較分析を行い、そこから見える日本語話者と中国語話者の観察の角度の違い、思想（考え方）の違いについて検討する。結論として、以下の 2 点を明らかにする。

1. ものを観察するとき、日本語話者は全体的、客観的に事物を捉える習慣があり、それに対して中国語話者は、事物の中で、最も重要な部分に着目しており、各々それらを出発点として、連想できる助数詞（量詞）を選択している。よって、カテゴリー化に大きな相違が生まれる。
2. 中国語量詞は“一阵笑声”、“一片真心”等具体的な物に限らず、意識や心情のような概念的なものに対しても用いることができるため、より豊かな表現力を備えているといえる。これは、漢民族の思想の特徴の一つと言われる“具象思维（抽象的なものを具体化する思想）”を反映している。

## 7. 藤田昌志 (三重大学)

### 日本語と中国語の誤用例研究

[要旨] :

本発表では日本語誤用例研究、中国語誤用例研究の両研究の先行研究（学習実用書を含む）について考察し、展望を述べる。今後の日本語・中国語双方向からの誤用例研究の発展に寄与することを目的とする。従来のタンデム方式の語学学習法(das Tandem:語学学習の二人乗り。)では、学習者が到達目標言語についての一定の知識は持っていたとしても、自らの母語についての語学的知識を持っていなかったことに問題があり、さしたる効果があがらなかったと考えられる。二、日本語誤用例研究の先行研究の考察と展望、三、中国語誤用例研究の先行研究の考察と展望としてそれぞれの誤用例研究について考察する。四、結語。日本語誤用例研究については、日本における日本語話者を中心とする中国語学習者が在日本中国語話者の日本語誤用例に興味を持ち、中国語学、日本語学両方の知識を持つようになれば、日本における日本語誤用例研究は広がりと深さを持つようになり、それはタンデム方式の語学学習を実りあるものにするであろう。また、考察した結果によると、中国語誤用例研究の先行研究には談話レベルを扱うものが非常に少ない。今後は談話レベルの中国語誤用例研究の深化が望まれる。

## 8. 王 慶（九州外国語学院・非常勤講師）

### 選択解釈と疑問解釈

[要旨]

中国語においても日本語においても、選択関係を表す表現として、平叙文と疑問文に用いられものが異なる。本発表では、Chao(1968), 寺村 (1992), 伊藤 (2006), 中俣 (2011)などの先行研究に言及しながら、認知言語学的な視点から、中国語の“或者”と“还是”、日本語の「または」と「それとも」が選択平叙文と選択疑問文に生起する仕組みを解明する。

#### (1) 選択平叙文

- a. (或者)张三**或者**李四抬起了一架钢琴。
- b. 太郎**または**花子が一台のピアノを持ち上げた。

#### (2) a. \*(是)张三**还是**李四抬起了一架钢琴。

- b. \*太郎**それとも**花子が一台のピアノを持ち上げた。

(1), (2)からわかるように、選択平叙文においては、“或者”と「または」が現れれば、容認できるのに対して、“还是”と「それとも」では容認できない。

#### (3) 選択疑問文

- a. (是)张三**还是**李四抬起了一架钢琴**呢**？
- b. \*(或者)张三**或者**李四抬起了一架钢琴**呢**？
- c. 太郎が一台のピアノを持ち上げた**の**？ **それとも**花子が一台のピアノを持ち上げた**の**？

#### (4) 諾否疑問文

- a. \*(是) 张三**还是**李四抬起了一架钢琴**吗**?
- b. (或者) 张三**或者**李四抬起了一架钢琴**吗**?
- c. 太郎**または**花子が一台のピアノを持ち上げた**の**?

一方、

(3)と(4)の疑問文においては、中国語の場合、“或者”と“还是”は生起状況が正反対しているのみならず、文末“语气词”にも“吗”と“呢”の対立が見られる。日本語の場合、「それとも」と「または」では意味解釈が異なり、文末助詞の対立が見られない。また、本発表では選択関係が譲歩構文ともかかわっていることを検証する。

(5) 譲歩構文

- a. **不管**(是) 张三**还是**李四**都**抬起了一架钢琴。
- b. 太郎**であろうが**、花子**であろうが**、みな一台のピアノを持ち上げた。

<参考文献>

伊藤さとみ (2006), 「「無論…都…」構文について」, 『中国語学』 第 253 号, pp.234-253.

王慶 (2012), 「量化解釈と疑問解釈—集合と個体の関係に基づく統一的分析—」 博士論文, 九州大学.

寺村秀夫 (1992), 「あるいは、または、もしくは、ないし(は)」 『寺村秀夫論文集 I—日本語文法編—』, pp.349-359, くろしお出版.

中俣尚己 (2011), 「選択を表す接続詞「または」「あるいは」「もしくは」「ないし」「それとも」の使い分け」 『実践國文學』 80, pp.247-229, 実践国文学会.

Chao, Yuen Ren (1968), *A grammar of spoken Chinese*, Berkeley: University of California Press.

## 9. 高橋弥守彦 (大東文化大学)

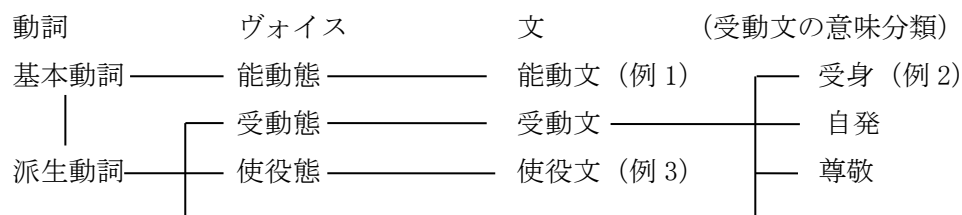
### 日中対照関係から見る中国語の使役表現について

[要旨]

日本語は誰を主体とするかで、下記の文に見られるような能動文、受動文、使役文、使役受動態文などが作られ、それにふさわしいヴォイスが用いられ、[表 1] のようにヴォイスと文との関係を体系的に整理することができる。

- (1) 次郎が三郎を褒めた。(能動態、有情物主体の意思性)
- (2) 三郎は次郎に褒められた。(受動態、有情物主体の非意思性)
- (3) 太郎が次郎に三郎を褒めさせた。(使役態、第3者主体の意思性)
- (4) 次郎は太郎に三郎を褒めさせられた。(使役受動態、有情物主体の非意思性)

[表 1] ヴォイスと文との関係



本稿では日中対照研究の観点から、以下のような使役動詞“叫/让/使/令”を用いる中国語の使役表現を分析の対象とし、中国語の使役表現と日本語との対応関係を明らかにする。

- (5) 老师叫我们做作业。(興水優 島田亜美 2009 : 92)  
先生は私たちに宿題をさせる。(同上)
- (6) 他不让我进去。(丸尾誠 2010 : 158)  
彼は私を (中に) 入れてくれない。(同上)
- (7) 过度的疲劳使他病倒了。(李臨定 1993 : 421)  
過度の疲労で彼は病に倒れた。(同上)
- (8) 那个消息太让/叫/令人不安了。(陆庆和 2006 : 421)  
そのニュースはひどく人を不安に陥れた。(筆者訳)